

途 上



題字：副校長 文責：教頭

先日は、秋晴れの下、無事に校庭大運動会を行うことができました。保護者の皆様に見ていただくことはできませんでしたが、足下にはきれいに白線が引かれ、頭上には万国旗がはためく、運動会にふさわしい環境で、一人ひとりが精一杯の走り、動きを披露することができました。「これまでありき」の運動会ではなく、子ども同士で、子どもと教師で、そして職員みんなで考え合い、今回の形の運動会を実現することができました。



さて、先週末で前期が終了し、今週からは後期が動き出しました。今号では、前期終業式で話された、小池副校長先生のお話を中心にお届けいたします。

『育ちゆく 感謝の木』 ～小池副校長先生から～

(10月2日 前期終業式)

1年生の発表では、運動会の思い出を日記にしてくれました。流れ星リレーや信濃の国ダンスのうれしかったことや楽しかったことが、とても伝わりました。

3年2組、ピザづくりを追求する皆さん。コロナ禍で調理ができない中で、野菜作りや安全に配慮したやり方を考えてきました。ピザづくりの様子もちょっと見せてくれましたが、粉をこねる手慣れた手つきにすごいなと思いました。本日も行く、今年度初めての窯の火入れが楽しみです。



5年1組で取り組む竹とんぼ。竹(材料)と小刀(道具)、高く、長く、美しく飛んでほしいという願いをもって、軽量化、羽の角度、軸の長さ、軸の表面の工夫、回す向き等、時に自分が軸になって浮き上がる感覚を実感しようとする姿に、あくなき追究心を感じました。国際竹とんぼ協会との出会いを通して、一層竹とんぼの奥深さに触れていくことでしょう。

10月に入りました。昨夜は「中秋の名月」。きれいなお月様がかかっています。昇降口前のキンモクセイも花を付け、いい香りを漂わせています。暑かった夏も過ぎて、秋の訪れを感じますね。先日は本当に素晴らしい運動会をありがとうございました。

さて、令和2年度附属小学校の前期が今日で終了します。振り返ってみると大人の私でも初めて経験することが多く、大変な半年だったと思います。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、私たちの生活は一変しました。

○2ヶ月間の臨時休業…3月から入れるとほぼ丸々3ヶ月間、皆さんは学校に来ることができない、家で生活することとなりました。その間、皆さんと学校とのやりとりは宿題や提出物の受け渡し、ズームによるオンライン授業、ユーチューブやバンドによる動画配信となりました。

○分散登校…クラスごとの分散登校、兄弟姉妹関係を一緒にした午前午後の分散登校を行いました。その間、東和田運動公園そばの駐車場をお借りして、その場所から歩いて学校に通った人もいました。

○新しい生活様式…毎日朝と夜に体温を測るようになりました。マスクをつけて生活するようになりました。手洗い、消毒をこまめにするようになりました。給食は前を向いて黙って食べるようになりました。三密（密閉…換気しない状態、密集…フィジカルディスタンスをとらない状態、密接…マスクをしない状態）を避けた生活になりました。



こうした大変な中で、私たちは落ち込んでばかりではありませんでした。この大変な危機になお、“希望の光”を見いだしていたのです。



もっともうれしかったこと、それは皆さんが主体的に動き出してくれたことです。児童会長の池田君は「先生たちは、コロナで大変な中、僕たちの事を常に考えていろいろ挑戦してくれている。自分の事を思ってくれている先生がいる。それが僕のやる気につながっている」とメッセージを届けてくれました。そして、「感謝の木をつくりたい」という願いをもって児童会役員を中心に

に、全校を巻き込んだ活動を展開中です。私たちも6年生を中心とした自分たちからの動き出しに元気と勇気をもらっています。本当にありがとう。

皆さんのおうちの方々も私たちを応援してくれています。オンライン授業をするにあたっては、環境を整えてくれたり、一緒につきあってくれたりしてくれました。学校のプールの草を汗だくになってとってくれました。学校のトイレや外回りの草をきれいにしてくれました。おうちの皆さんも皆さんを後押ししてくれています。何てありがたいことでしょうか。

また、学校に来るといふことの意味を改めて考えさせられたことです。学校の校庭にある草一本を抜くとは、その場でしか体感できないものです。同様

に、動物を飼育する、植物を栽培するといった直接体験でしか得られない、体丸ごとでの関わり、手触りやにおい、水や土、風や日光といった自然に対して、五感をフルに働かせての関わり、そうした皆さん同士の関わりは学校に足を運ぶことでしか得られないことです。それから、私のものではない机やいすを使う、みんなのトイレを使う、廊下を歩く、電車に乗る、道路を歩くといった公共でのあり方、公共性について学ぶことの大切さを改めて感じました。



ズームなどの情報機器を活用するようになったことも大きな成果でした。児童総会もそうでしたし、児童会の活動の中でもズームを使ってやってみようという発想が当たり前ようになってきています。来年になると、皆さんは一人一台ずつタブレット型パソコンを使って授業をするようになると思います。こうしたデジタル化の時代がすぐそこまで来ています。その機械を使って何ができるか楽しみですね。



新型コロナウイルス感染症は、このように私たちに“新たな希望の光”を届けるきっかけにもなっているのです。

では、今後のことに目を向けてみましょう。

今は感染があまり広がっていませんが、このまま収まってしまうということも考えにくいと思います。これからも用心して、新しい生活様式を取り入れた生活をしていきましょう。それから、前にもお話ししましたが、新型コロナウイルスは誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。感染した人にこころない言葉をかけたり、張り紙をしたりすることが起こっています。差別をしない、させない、許さない。自分の心の中にある弱い心とも向き合っていく時です。

休み明けから後期になります。見いだした“希望の光”をあたため、新たな“希望の光”を見つけ、更なる希望を胸に、元気に登校しましょう。以上でお話を終わります。

「児童会活動をやりたい」

休業が開けてから夏休み前まで、池田児童会長の発信によって大きく育った『感謝の木』が全校を見守る中、児童会活動は実質行われていませんでした。しかし、6年生の心の内には「児童会活動をやりたい」、「児童会の時間を設けてほしい」の思いが、強く流れ続けていました。6年2組の社会科の授業では、公民

の授業と児童会活動を繋げ、児童会への思いを語るKさんの姿もありました。

そういった思いを大切に受け取るべく、夏休み明けからは一気に児童会が動き出しました。児童総会がオンラインで行われ、それぞれの児童会の活動が具体的にになり、その具体を実現させつつあります。先週は、清掃委員会から、「清掃の時間にひとりになる努力をしよう」と発信がありました。“おしゃべりをやめる”ことの徹底ではなく、まずは“ひとりになってその努力をしてみる”という行為を促しました。児童会からの発信、6年生からの発信を受け取り、自身の行為を振り返り、ひとりになる努力をする姿が清掃の時間に見られるようになりました。

後期初日を迎えた昨日は、交流員会主催の『交流イベント』が休み時間にランチルームで開かれました。おもに低学年が参加していました。交流委員長からクイズが出され、○か×か考え、床に書かれた（テープで貼られた）○側か×側に動くというクイズイベントでした。先生クイズがあったり、学校クイズがあったり、



り、○か×かで一喜一憂していました。予定よりもスムーズに進み時間が余りしたが、M委員長は機転を利かし、「問題が出せる人はいますか？」と聞くと、2年生が手を上げ、「トカちゃんの娘のララちゃんに、発情が来たと思う○か×か？」や「よつばちゃんは消しゴムを食べてしまったことがあるかないか？」と、即興で問題を出していました。心が和む、素敵な場面でした。

やらされている児童会活動ではなく、自らが考え主体的に動く、6年生を中心とした児童会活動に、子どもたちの大きな育ちを感じた瞬間でした。

学校からのお知らせ(一斉メールにてお伝えしたものもあります)

(1) 臨時の学級懇談会について

16日(金)に1・2年生、22日(木)に3・4年生、28日(水)に5・6年生の臨時の学級懇談会が開かれます。ご都合つく保護者の方は、ご参加いただくようお願いします。なお、懇談会中にお子様を連れて来られる方は、事前に必ず担任まで連絡するようにしてください。よろしく申し上げます。

(2) 健康チェック表について

毎朝の健康チェックありがとうございます。引き続き朝の検温などよろしく申し上げます。

(3) 11月28日(土)の初等教育研究会について

『常任委員会だより』でも触れていただきましたが、今年度の初等教育研究会は、オンライン開催となりました。事前に収録した授業をオンラインで視聴いただき、研究会を行いますので、当日の児童の登校はありません。年間計画では11月30日(月)は振替休日となっていますが、通常の登校日となります。ご承知おきください。